

創立110周年 スローガン	立教182年 活動方針
「創立110周年に向けて、 各教会が話し合い心を定めて、 一手一つで通ろう！」	「おやさまのひながたとは、 ようほくを育て増やすこと」 ・初席者 104名 ・中席者280名

◇教祖御誕生祭・婦人会総会◇

教祖御誕生祭：4月18日午前10時執行
婦人会総会：4月19日午前9時半式典

◇立教182年春の学生おぢばがえり◇

3月27日夕づとめ後:前夜祭(東西泉水プール前広場)
28日午前10時:式典「真柱様お言葉」・直属アワー(詰所)

◇全教一斉ひのきしんデー◇

4月19日(祝)お近くの会場へ家族みんなで参加しましょう。
会場はお近くの教会か、「教区・支部情報ねっと」でお調べ下さい。



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227

大教会二月月次祭

大教会2月の月次祭は、12日午前10時から大教会長祭主のもと、執行された。

大教会長は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「本部の春季大祭において、有難くも、真柱様がかぐらづとめをお参拝下さるまでに、御守護を頂戴いたしましたこと、心より厚く御礼申し上げます。私共は、おさづけを頂くことや、真柱様が御本部の祭典に於いて、お勤め下さることが、当たり前のように思っておりましたことを深く反省し、日々頂く当たり前のことすべて、親神様の御守護の元に通らせて頂いているものと改めて悟り、真に心を入れ替え本年の心定めに向けより一層真剣に力強い一歩を歩ませて頂く所存でございます。」と奏上した。

人の御守護	初席	中席
2月	10席	1席
累計	10席	1席

神殿講話

結城 和広 役員



神殿講話全文

1月26日、おぢばでは立教182年の春季大祭がつとめられました。ご身上療養中の真柱様がかぐらづとめまでですが結界の中でご参拝下され、大変嬉しく、有難く思わせて頂きました。

祭典講話は表統領の中田善亮先生がつとめられ、春の大祭の元一日を振り返られながらお話し下さいました。

私の覚えている限り、真柱様も春の大祭では必ず、教祖が現身を隠された時の話を、稿本天理教教祖伝の第10章を引用されてお話しされていたと思います。それは、それだけ私たちは春の大祭をつとめる意味合いを決して忘れてはならない、教祖が現身を隠された元一日をしつかりと心においてつとめなければならぬからだと思います。

先日、二代真柱様の教祖50年祭の時のお言葉を見させて

頂くことができました。

「正月26日。この言葉は何と強い力の含まれている言葉でしょう。正月26日と聞けば、私は電気に打たれた人のようにピクツと緊張するのであります。正月26日こそ、教祖の御昇天の日である。扉を開いてご守護をお始め下された日なのだ。取替えの無いお身体を隠してまでも、子供達の成人をお急き込みになった日ではないか？決して忘れることの出来ぬ日である。天理教にとっては後にも先にももう一度とない大節の日なのだ。この日の意義を改めてかみ締める時、信仰者としての自分を振り返り「このままでは申し訳ない」と自責の念を感じずにはいられない」と記されていました。

これを見た時、私はこれだけの想いで春の大祭をつとめているのだろうか？と反省させられるものがありました。

教祖の50年のひながたは、ひと言で言えばおつとめ、つとめ完成のための道すがらであったと思います。もちろん、つとめの完成までには、色々なご教理も私達人間に教えて下さいました。しかし、もっとも大切